

大弥精機が新試験機

砥石回転破壊 周速毎秒80m

【浜松】大弥精機（静岡県磐田市、松原正基社長）は、定格以上の周速度で研削盤用砥石を回転させて破壊試験を行う「砥石回転破壊試験機」に、高速仕様機種を追加して発売した。従来は使用周速度の最速が毎秒60mだったが、同80mの砥石に対応する。消費税抜きの価格は仕様によって異なるが、500万～2000万円程度。新機種投入を機に、砥石用以外も含む各種回転試験機で年間1億円の売上高を目指す。

砥石回転破壊試験機 壊して耐久性などを確認する砥石の材質は回転主軸に砥石を取認する。砥石は破裂するアルミナなどで、最もり付け、最高使用周速するように壊れるため、大サイズが直径約1度の約2倍の速さで砥装置には飛び出ない構造、厚さ200mm、砥石を回し、遠心力で破壊と耐久性を備える。重さ100kg程度。

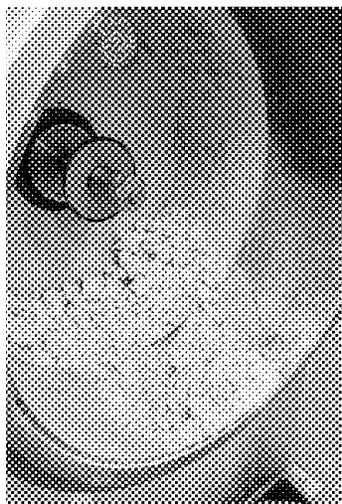
E V 部品生産拡大に対応

新機種は電気自動車（EV）部品の生産拡大に対応するため、開

発した。EV用ギア部品は騒音を抑えるため、これまで切断砥石に歯面研削加工を施す必要があり、量産に向けてより高速で使える。試験機は3月5日に

砥石の需要が海外で伸びている。試験機は3月5日に

大弥精機は工作機械加工の専門展「グライ用スピンドル（主軸）ンディングテクノロジメーカー。スピンドルーシヤパン2025」メーカーが応用製品とに出展する。



砥石を高速回転させて破壊試験を行う